

国立感染症研究所検査診断技術研究部第四室 研究員 募集

- 【募集部署】 国立健康危機管理研究機構
国立感染症研究所検査診断技術研究部第四室
- 【勤務地】 国立健康危機管理研究機構
村山キャンパス 東京都武蔵村山市学園 4-7-1
国立感染症研究所
＜変更の範囲＞ 国立健康危機管理研究機構の事業場
- 【募集職種】 研究員（任期付常勤職員）
- 【採用人数】 1名程度
- 【職務内容】 検査診断技術研究部は、次に掲げる事務をつかさどる。
一 感染症の判別のための検査及び診断に係る技術に関する研究、開発（これらに関するレファレンス業務を含む。）並びに講習を行うこと。
二 感染症の判別のための検査並びにこれらに必要な科学的調査及び研究（これらに関するレファレンス業務を含む。）並びにこれらに関する講習を行うこと。
第四室においては、検査診断技術研究部の所掌事務のうち、緊急時における検査体制の向上及び地方衛生研究所等への支援に関することをつかさどる。
うち採用予定職では次の業務を行う。
1. 感染症の診断及び検査技術の向上に関する開発研究
2. 緊急時の病原体検査体制の向上に関する開発研究
3. 地方衛生研究所等への感染症の検査支援に関する開発研究
4. 新型インフルエンザウイルス等の新興・再興感染症の出現監視に関する開発研究
＜変更の範囲＞ 国立健康危機管理研究機構における研究等業務全般
- 【選考基準】 1. ウイルス学に関する実績を有すること
2. 感染症の診断及び検査技術に関する研究意欲を有すること
3. 第四室が担当する業務に積極的に取り組む意欲を有すること
4. 他の研究員と連携して業務を遂行できる協調性を有すること
5. 博士号取得後4年以内の博士号取得者もしくは同等とみなされる程度の専門的な知識経験を有する者
※上記1から5を満たすこと
※なお、次のいずれかに該当する者は、応募できませんのでご了承ください。
①拘禁刑（禁錮）以上の刑に処せられ、その執行を終わるまでまたは執行を受けることがなくなるまでの者
②当機構にて懲戒解雇の処分を受け、当該処分の日から2年を経過しない者
③日本国憲法またはその下に成立した政府を暴力で破壊することを主張する政党その他の団体を結成し、またはこれに加入した者
- 【雇用期間】 令和7年11月1日より3年（試用期間：採用日から6ヶ月間）
※契約の更新：無
- 【給与】 ＜基本給＞346,000 円/月 ※各種税控除前の金額
＜業績手当＞年2回（6月・12月）、状況等により変動有
＜他主要手当＞地域手当（上記基本給の14%）、通勤手当

- <定期昇給>なし
- 【勤務形態】 9時00分から17時45分(休憩時間12時～13時)
休日:土日祝、年末年始 12/29～1/3
休暇:年次有給休暇、リフレッシュ休暇、特別休暇(忌引等)
※業務の都合により、超過勤務が生じる場合あり
※勤務開始時間の変更・フレックスタイム制の適用は相談可
- 【そ の 他】 健康保険、厚生年金、雇用保険、労災保険に加入
※処遇詳細は、「職員就業規則」および「職員給与規程」による。
- 【選考方法】 書類選考及び面接
※面接試験にかかる交通費等の支給なし
- 【応募書類】 ・履歴書(写真添付、様式任意、PC から連絡可能なメールアドレスを記載)
※学歴は高等学校卒業以降から記載
・学位記(写し)または学位を証明するもの
・主要研究概要(1,200字以内)
・応募職の業務内容に関する抱負(1,000字以内)
・業績目録(A4版縦 横書き、別紙参照)
・論文別刷(1編以上)
・書類送付先またはメールアドレスに 9 月 19 日(金)12時必着で送付してください。
・下記募集部署を封書の場合は朱書き、メールの場合は件名にしてください。
『国立感染症研究所検査診断技術研究部第四室 研究員 応募』
・応募書類は採用審査の用途に限り使用し、返却いたしませんのでご了承ください。
・面接はオンラインにて実施することがあります。
- 【書類送付先】 〒162-8640
東京都新宿区戸山1-23-1
国立健康危機管理研究機構
国立感染症研究所総務部人事課 担当:宇田川
メール:koubo-niid@nih.go.jp
TEL:03-5285-1111 (内線)2025

業績目録

氏名 _____

1. 著書

2. 学術論文（学会誌発表等）

（1）欧文

（2）邦文

3. 学会発表（講演・発表等）

4. 外部資金（研究費）獲得状況（研究代表者のみ、直近5年）

（記入上の注意事項（共通））

1. 上記項目ごとに、著者名等、著書名等、発行所名（発表雑誌名）の順で記載し、それぞれを改行すること。
2. 年代の新しいものから順に記載すること。
3. 発行所名、発表雑誌名の次に巻号、ページ数及び発行等の西暦を記入すること。
（例：Journal of Virology, 78:1298-1315, 2002）
4. 欧文の発表等は、原文のまま記載し、下段に（ ）書で和訳を記載すること。
5. 各題名の書き出しに、発表形態の種別を記載すること。（単独は（単）、筆頭は（筆）、その他は（他））
6. 著者名等は、本人以外も省略せず全て記載し、さらに本人の名前にアンダーラインを引くこと。
7. 長期の無発表期間がある場合は、その理由書を添付すること。
8. 査読有りの論文については最低限、記載すること。

（参考例）

1. 著書

①機構太郎、感染太郎
(他炎症の組織病態
〇〇社, PP. 67-87, 1989)

2. 学術論文

(1) 欧文

①Taro Kansan, Jiro Kansan, Saburou Kansan, Tarou Kikou, Jiro Kikou, Saburou Kikou
(筆) An Outbreak of 〇〇〇〇〇〇〇 Infection in USA , 2002
(〇〇〇〇〇〇〇感染症のアウトブレイクー2002年アメリカ)
Epidemiology and Infection, 15:286-289, 2002

(2) 邦文

①感染太郎、感染二郎、感染三郎、機構太郎、機構二郎、機構三郎
(筆) An Outbreak of 〇〇〇〇〇〇〇 Infection in Oosaka, JAPAN, 2004
(〇〇〇〇〇〇〇感染症のアウトブレイクー2004大阪)
Epidemiology and Infection, 16:311-335 2004

3. 学会発表

①感染太郎
(単) ラット皮下腫瘍の消長と〇〇〇の相互関係について
第25回日本病理学会総会, 東京, 1989

4. 外部資金(研究費)獲得状況(研究代表者のみ、直近5年)

①厚生労働省、〇〇(課題名)
期間: 令和〇〇年~令和△△年、金額〇〇〇円/年

②科学研究費補助金、(課題名) □□□□□
期間: 令和〇〇年~令和△△年、金額〇〇〇円/年